

編集後記

去る6月26日・27日の両日、第117回東北整形災害外科学会が、高木理彰教授（山形大学整形外科）の主催のもと、初の完全Live-Web形式で開催されました。開催に当たっては、学会の延期、中止（来年への順延）といった意見も出ましたが、高木会長のご英断で、日程の変更を行わず、通常学会のように各会場（5チャンネル）に座長と演者がWeb上に出席する形で演題発表が行われました。

会場（聴講者）からの質問はチャットを通すことにはなりますが、通常の学会以上に活発な質疑応答が行われました。我々聴衆は会場を歩いて移動することもなく、チャンネルを切り替えて聴講したい会場に参加することができます。私自身は海外演者の座長を務めさせていただきましたが、聴衆からの質問はチャットを通しての書き英語となるため、沢山の質問が寄せられ、有意義な招待講演となりました。私も含めて（恥ずかしくて）人前で英語を話せない日本人にとって、このWeb学会形式は案外合っているのかもしれません。

現在、全国の医学部ではこのようなWebを用いた授業が行われています。教員は自分のPCに向かって講義を行い、それを学生が思い思いの時間に視聴し勉強するというスタイルです。私が学生の頃は、臨床講堂に患者を連れてきて、大勢の医学生の前で患者を教授が診察をするといった講義もありました。そのような教育を受けてきた者にとって、Webを用いた医学講義は意味があるのか…といったご意見もありますが、学生の評価はまんざらでもないようです。TwitterやLINEなど様々なSNSを駆使している若者にとって、このようなスタイルは全く抵抗がないのでしょうか。し

かし、知識を伝える座学の講義は良いですが、長い間一人のご遺体と向き合う解剖実習、患者を直接診察する臨床実習は、やはりWebではできません。このところをどう質を落とさず行っていくのか、様々な工夫が必要です。

今月号の特集は、山本智章先生ご企画の「青少年野球における投球障害の現状と予防の歩み」です。山本先生は、肩・肘を壊した多くの野球少年を診てきた経験から、高校野球の連投禁止と球数制限の導入を、2008年の朝日新聞「私の視点」で提言しています。その主旨は、注目度の高い夏の甲子園野球大会が模範を示すことで、少年野球もそれを見習うだろうとのことでした。しかし、新潟県の高野連が初めて球数制限を提案するまで、実に10年の歳月がかかっています。

日本臨床スポーツ医学会の「青少年の野球障害に対する提言」の中で、小学生は1日50球以内、週200球を超えないことが謳われています。しかし、外来を受診する野球少年達の中でこれを守っているのは何人いるのでしょうか。松浦哲也先生の前向き調査でもこの提言は正しかったことが証明されているようです。我々はしっかりと根拠を示し、選手や家族、指導者に球数制限の重要性を説明していかなければなりません。

現在、皮肉なことに、新型コロナウイルスの影響でスポーツ外傷や障害の子供達は減っています。新型コロナウイルスが収束し、以前のように制限なくスポーツ活動が再開されることを期待しております。それとともに、過度のトレーニングによって夢を諦める子供達が増えないように努力していかなければなりません。（石橋恭之）

「整形・災害外科」第63巻 第9号（8月号） 2020年8月1日発行（毎月1回1日発行） 定価（本体2,500円＋税） 年間購読料金 定価（本体39,400円＋税） 〔年間13冊（臨時増刊号、増大号を含む）の誌代〕 〔年間予約購読者に限り送料無料〕	発行所 金原出版株式会社 発行者 福村直樹 〒113-0034 東京都文京区湯島2-31-14 TEL 03 (3811) 7165〔編集室直通〕 TEL 03 (3811) 7184〔営業部直通〕 FAX 03 (3813) 0288 http://www.kanehara-shuppan.co.jp 振替口座 00130-1-191269 印刷所 三報社印刷株式会社 広告申込先 日本医学広告社 TEL 03 (5226) 2791
--	---

・本誌に掲載する著作物の複製権、翻訳・翻案権、上映権、譲渡権、公衆送信権（送信可能化権を含む）、貸与権、二次的著作物への利用に関する原著者の権利は、金原出版株式会社が保有します。

・**JCOPY** <出版者著作権管理機構 委託出版物>

本誌の無断複製は著作権法上での例外を除き禁じられています。複製される場合は、そのつど事前に、出版者著作権管理機構（電話 03-5244-5088、FAX 03-5244-5089、e-mail: info@jcopy.or.jp）の許諾を得てください。